



2010年 JFICライブラリー特別展示

ちりめん本を知っていますか？

2010年2月9日[火] 3月30日[火]

【開館時間】午前10時～午後7時(入館は午後6時30分まで)

【休館日】土日祝日 ただし臨時休館日あり。(詳細は裏面をご確認下さい)

【場 所】国際交流基金 情報センター(JFIC)ライブラリー2F

【入館料】無料

ジャポニズム文化を世界に紹介した「ちりめん本」とは？

「ちりめん本」の名前は、本を手にとったとき、まるで布地のようになめらかに手に添う感触や、和紙がクレープ状に細かくちぢめられているところに由来しています。



この「ちりめん本」は、開国間もない明治時代に日本を訪れた外国人の間で、着物の生地のように品の良い色彩とその手触りが好まれ、日本の昔話や風俗を題材とした多色木版画刷りの絵入本として格好の土産物となっていました。

当時のヨーロッパでは、浮世絵を代表としたジャポニズム文化が大流行しており、日本文化が凝縮されたこの本は大変な人気を呼ぶ結果となり、各国語に訳され輸出までされていたそうです。

その「ちりめん本」を最初に考案し、出版したのが長谷川武次郎(1853-1938)です。武次郎はクリスチャー・カロザースのミッションスクール(後の明治学院)やウィリアム・ホイットニー校長時代の東京商法講習所(後の一橋大学)に通ったことから、在日宣教師や外交官、知識人と交友を広げ、国際的感覚を養いました。1884年(明治17年)に長谷川弘文社として出版活動をスタートさせ、1885年(明治18年)から「ちりめん本」の中でも最も有名な”Japanese fairytale series”(『日本昔噺』シリーズ)の刊行を始めました。

こうした「ちりめん本」が担ってきた異文化交流の役割の重要性と高い文化性からJFICライブラリーでは、「ちりめん本」を貴重なコレクションとして所蔵しています。今回の展示では、ライブラリーのコレクションから”Japanese fairytale series”(『日本昔噺』シリーズ)の各国語訳と日本の文化や生活様式などを紹介したものを中心に展示します。



参考文献：

- ・ 梅花女子大学HP 『長谷川弘文社の「ちりめん本」の世界』

http://manabiya.baika.ac.jp/el/contents/00007_jaoFij/top08.htm

JFICライブラリー所蔵
「ちりめん本」リスト (PDFファイル)

- ・ 関西大学図書館HP 電子展示室 『ちりめん本』

<http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/etenji/chirimen/index.html>

【アクセス】



〒160-0004

東京都新宿区四谷 4-4-1 国際交流基金 情報センターライブラリー 2F

(東京メトロ丸の内線 四谷三丁目駅 1番出口から徒歩3分)

電話：(03)5369 - 6086 / URL： <http://www.jpf.go.jp/j/about/jfic/lib/index.html>

【特別展示開期中の開館予定日】

2010年2月							2010年3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13	7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20	14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27	21	22	23	24	25	26	27
28							28	29	30	31			

■は休館日